

もいやま未来ミーティング 開催結果

開催日：令和6年2月25日（日）

午後1時30分から午後4時30分まで

もいやま未来ミーティングの概要

開催日時：令和6年2月25日（日）午後1時30分から午後4時30分まで
場所：守山市役所1階 多目的ホール

申込者数：42名

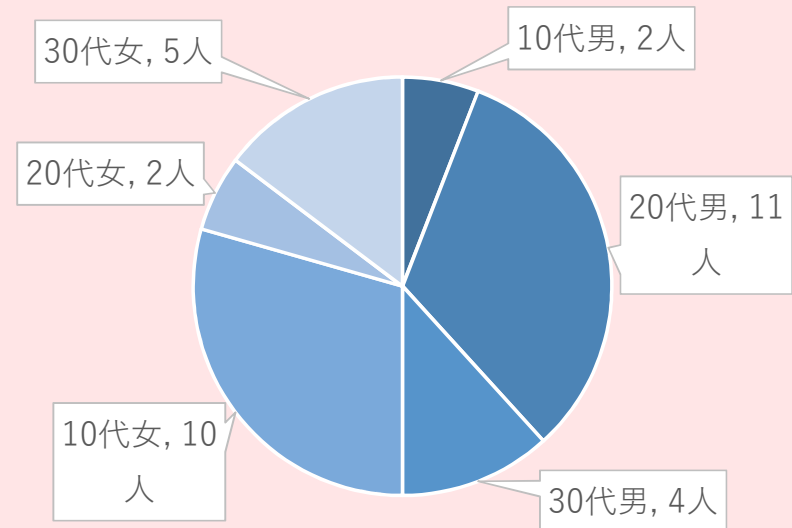
当日の参加人数

- ・参加者：34名（8名欠席）
+ファシリテーター12名
- ➡ 6グループに分かれて議論
（1グループあたり5～6名
+ファシリテーター2名）

※参加者の抽出方法

今回は、高校生からの意見も求めたいことから、16歳以上39歳以下の市民2,000人に案内を送付

参加者年齢構成等



もいやま未来ミーティングの内容

テーマ

あなたが描く理想の将来像を実現するために今できること
～やりたいことをあきらめないために～

<参加者への趣旨説明>

- ・令和5年4月に「こども基本法」が施行され、「市町村こども計画」の策定が努力義務化された。
 - ・「こども基本法」には、こども等の当事者から意見を聞くことが義務化されている。
 - ・「こども計画」には、「子どもの貧困対策計画」と「子ども・若者計画」が必須となる。
 - ・現在、守山市では「子ども・若者計画」は未策定である。
 - ・「子ども・若者計画」を策定する際には、若者の意見等を聞く必要がある。
- ↓
- ・以上のことから、若者の意見を聞き取り、「子ども・若者計画」の策定のための、資料としていく。

当日のスケジュール

<当日の流れ>

1.開会式（15分間）

・挨拶　・事前説明

2.アイスブレイク（10分間）

3.ワークショップ

Step1：あなたの理想の将来像はどのようなものですか。（25分間）

Step2：あなたの現在の状況についてどう考えていますか。（40分間）

休憩（10分間）

Step3：あなた自身にできることや行政に求めることは何ですか（40分間）

4.発表（1グループあたり5分）

5.閉会式（講評）



主な意見 <ステップ1>

自身の将来像はどのようなものか。（職業・家庭環境・地域環境）

<意見>

- ・ 20代後半で結婚・出産したい。
- ・ 子どもは複数人欲しい。
- ・ 育休等を活用しながら働きたい。
- ・ 守山市に住み続けたい。
- ・ 子育てと仕事を両立したい。
- ・ 結婚したい、誰かを支える仕事をしたい。
- ・ 人生の選択肢を増やしておきたい。
- ・ 福祉、社会に関わりたい。
- ・ 温かい家庭を築きたい。
- ・ 産休がとれて、育休後も戻りやすい職場で働きたい。
- ・ 20代のうちに仕事のスキルを身につけたい。
- ・ 独身を楽しみたい。
- ・ 滋賀県で先生になりたい。結婚して子どもができて仕事は続けたい。

<考察>

- 円安物価高、国による子育てに関する支援や補助等が安定していない状況であるものの、結婚や子育てに対する前向きな目標が多く出ている印象を受けた。
- 福祉や社会と関わり、支援したい思いを持った若い世代が多かった。
- 守山市を離れたくない、滋賀県を離れたくないという、地元に対する思いが強い方も多かった。

主な意見 <ステップ2>

あなた自身の現状はどうか。

<意見>

- ・給料は安いけど仕事は楽しいと思う一方、安心して子育てできるか不安。
- ・身近に頼れる人がいない。
- ・時短復帰者に対する職場の理解が少ない。
- ・仕事は好きだが、このまま続けるか・・・（適性等の問題）
- ・時間がない、お金がない。
- ・今は学校の教員、両親と実家暮らし、結婚はいずれできればいい。
- ・周囲が進路決めているのに自分は決まっていない。
- ・将来への不安はあるが、現状には満足。
- ・福祉や社会への関わり方が分からない。
- ・理想に近づきたいが何をしたらいいか具体的に見えていない。
- ・会社の将来性への不安。
- ・近くに勉強できるスペースがない。
- ・将来のプランに明確なビジョンを持ちづらい。
- ・自分が子どもや家族を養っていく姿が想像できない。

<考察>

●子育てに関する不安や、低賃金に対する不安を抱えている意見が多かった。低賃金でも安心して子育てできるのか、会社側の理解があるのか等、社会全体が変わっていかねばならない問題に対する不安感は強いという印象を受けた。

●若者が将来に希望を持ち、望む未来を実現できるよう様々な支援策を講じていく必要がある。

主な意見 <ステップ3>

2つのステップを踏まえた自分の行動と行政等からの支援について

<自分の行動>

- ・ 出産、育児に関する知識をつける。
- ・ 社会参画して意見を伝える（選挙・会議等）
- ・ 自己研鑽
- ・ 与えられた機会を積極的に利用し、選択肢を増やす。
- ・ 限られた時間の有効活用

<行政からの支援>

- ・ 将来について相談できる機関の創設
- ・ 道路の混雑緩和
- ・ 街灯の増設
- ・ 相談の基準になる指標の作成
- ・ 結婚補助金の収入要件の撤廃
- ・ 制度としての時短、産育休ではなく実現可能なフォロー体制
- ・ 不安や情報共有できるコミュニティの設置
- ・ 子どもたちを地域等の社会で育てていけるような環境整備

<行政からの支援>

- ・ 勉強できる施設（図書館等ではなく、会話しながら勉強できる場所）
- ・ 高校生以上への学習支援
- ・ 年代間の意見交換、相談の場
- ・ 奨学金制度の充実
- ・ 子どもが遊べる環境の整備
- ・ 市役所や図書館等きれいな施設が整ったので、今より市民が参画できる企画や行事の増加
- ・ 定住者への支援
- ・ 交通施策の拡充
- ・ 無申請でも自動で支援できる制度
- ・ 支援の情報を入手する機会の増加

主な意見 <ステップ3>

2つのステップを踏まえた自分の行動と行政等からの支援について

<考察>

- 自分自身の行動については、知識の獲得や自己研鑽、時間の有効活用など、必要な時に困らないための準備についてや、直接自分の主張等を発信するために選挙や会議等の場を有効活用するという意見が多かった。
- 行政等に求める支援としては、将来への不安を払拭するための相談機関の設置や意見交換をしたい希望、将来に向けた勉強スペースの設置、結婚や子育て支援のさらなる拡充、自分の意見等を積極的に市政へ届ける場の拡大等、市の現状を的確に捉えた様々な意見が出された。
- その他の行政に求めるものとして、申請をしなくても、情報がなくても支援を受けることのできる体制の整備について、一部意見がでていた。

<その他>

聞きたいこと、言いたいこと、感想等

<参加者の感想>

- ・参加してよかった。
- ・夢を実現するためのサポートの重要性を感じた。
- ・高校生が多く参加していて、守山の未来は明るいなと感じた。
- ・もっと同世代の人と対話し考える機会があると良いと感じた。
- ・一般市民、大学生、高校生の声を拾える場が広がれば良いなと感じた。
- ・同じ市民の方々の意見を聞くことができる良い機会だった。
- ・託児があったので子連れでも参加できた。

<聞きたいこと、言いたいこと>

- ・教育や福祉に対する予算をもっと割いてほしい。
- ・バスを利用しやすくしてほしい。
- ・不登校や通信制教育課程にある若い人などに対するサポートが不十分だと感じる。
- ・魅力的なイベントを増やし、人とのつながりを生み出すサポートをしてほしい。
- ・市役所をもっと自由に入出入りできる場所、雰囲気にしてほしい。

まとめ・意見の活用方法

<まとめ>

- ・各年代10人前後、男女比率五分五分、とバランスの取れた比率で集まっていたいただき、また、20代男性、10代女性が参加人数10人を超えるなど、若い方に積極的に参加していただくことができた。それぞれの持っている意見を積極的に議論いただき、様々な思いを引き出すことができた。
- ・同年代、他年代の意見交換等により、それぞれの方々への良い刺激になったのではないかと感じている。

<意見の活用方法>

- いただいた意見の活用方法は、次年度に「こども計画」（子ども・若者計画）を策定する際の「守山市の課題点」として使用し、施策検討の参考とする。
- 当該計画には含まれない内容の意見については、然るべき部署へ通知し、意見反映に向けた調整を行ってもらう。意見反映が不可能な場合は、同上内容と同じく、不可理由を添えて当事者へフィードバックを行う想定をしている。